

＜書 評＞

Terence Kavanagh 著

長田 博昭 訳（聖マリアンナ医科大学）

心臓発作をのりこえて

土肥 豊（埼玉医科大学）

近年、心筋梗塞後のリハビリテーションに関する関心が年毎に高まり、この方面の業績も年々数多く発表されるに至っているが、この度、発行された「心臓発作をのりこえて」は、きわめてユニークな、そして読む者の心を感動させずにはおかない劇的な一篇の長編小説である。同時に、医学的リハビリテーションに関しても、かなり高度の学問的水準の内容を、平易に、しかも具体的に解説してある点で、専門書としても充分評価し得るに足る良書である。とくに第一部の運動生理学に関

する章は一般臨床医、ナース、PT、OTなどの医療関係の人々にも是非読んでもらいたい重要な内容を含んでいる。もちろん第二部以降にも医学的にみて、かなり高度の内容のものも含まれているが、総じて小説を読むような気安さで楽しく読むことができる。知らぬ間に最後まで一息に読んでしまったという読後感をもつ人は筆者だけではないであろう。エビログおよび付録についている各種のノモグラムおよび諸表は、個々の症例についてその運動に対する耐容能を客観的に評価するにあたっ

てきわめて有用である。

長田氏の邦訳も、とかく訳本にありがちなぎこちなさを感じさせず、きわめて読み易い本にまとめられている点、訳者の労苦に心から敬意を表したい。ただ一部の訳語で、ごく一般的には異なった言葉が用いられていると思われる点がやや気になった。たとえば阻血は一般的には虚血、準最大負荷は一般的には亜最大負荷というが如きである。ただし、この訳でも間違っているというわけではなく、本書の価値をそこなうものでは決してない。

とにかく、本書は素人向きに書いたとなっているが、その内容は医療に関係したあらゆる職種の人々、あるいは医学生、看護学生などに広く推せんしたい良書の一つである。

（A 5，頁406，1982，¥3,800，
古橋書店刊）